

オーストラリアレポート

# 豪州企業の決算動向と業績見通しの注目点

- 豪州株は持ち合い相場が続く。強弱分かれた決算発表、業績回復期待の一巡、北朝鮮情勢の悪化などが背景。
- 豪州株は先進国株と比較して割安な評価。豪州企業の業績回復の行方が今後の豪州株への再評価のカギを握る。
- 豪企業業績は2018年度以降も増益基調が見込まれる。利益率の改善と豪州景気の拡大が今後の増益要因に。
- LNG輸出や個人消費が経済成長を押し上げへ。豪州準備銀行は2019年末の実質GDPを前年比+3.0-4.0%と予想。

## 6月以降、レンジ相場が続く豪州株式市場

2017年6月以降の豪州株式市場は、主要株価指数のS&P/ASX200指数が5,700ポイント前後で推移する持ち合い相場が続いています（図1）。

足元の方向感に乏しい豪州株式市場の背景には、①2017年6月期の豪州企業の決算発表が強弱分かれる結果となったこと、②足元で豪州企業の業績回復期待が一巡していること、③北朝鮮情勢の悪化により地政学的リスクが高まったこと、などが挙げられます。

## 豪州企業の決算発表は強弱分かれる結果

多くの豪州企業にとって7月下旬から8月末にかけては、2017年6月期の決算発表シーズンとなりました。ブルームバークの集計によれば、S&P/ASX200指数採用銘柄のうち162銘柄がこの期間に決算を公表し、一株当たり利益（EPS）が市場予想を上回った銘柄が49%（79銘柄）、市場予想通りとなった銘柄が2%（3銘柄）、市場予想を下回った銘柄が49%（80銘柄）となりました。

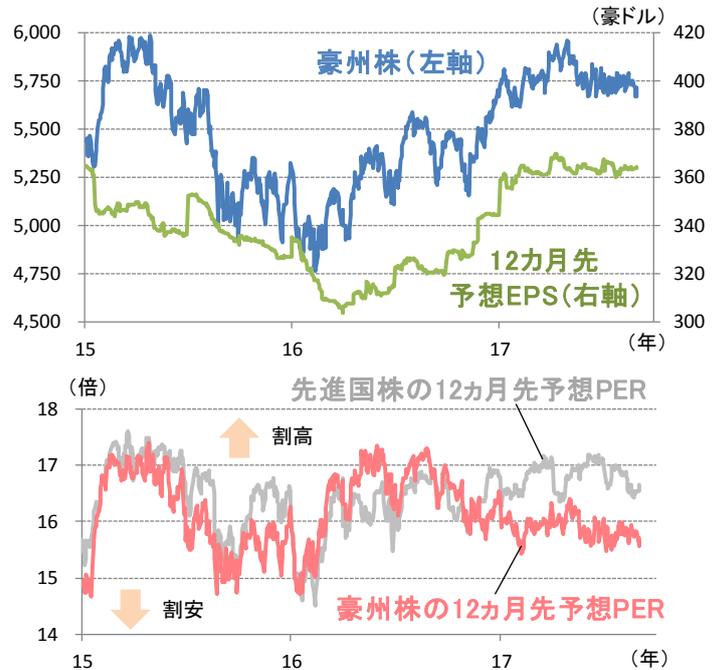
S&P/ASX200指数の12か月先EPSの予想コンセンサスは決算発表期の7月下旬～8月も概ね横ばいで推移し、2016年から続いてきた業績回復期待が一時的に踊り場を迎える形となりました（図1上段）。

## 豪州株は先進国株と比較して割安な評価

バリュエーションの面では、8月末時点の豪州株の12か月先予想PERは15.7倍へ低下し、先進国株（16.6倍）と比べて相対的に割安な評価がなされています（図1下段）。

2017年6月期の決算発表は強弱分かれる結果となったものの、足元では豪州企業の景況感や信頼感が改善傾向にあることは先行きの企業業績の回復の可能性を示唆しています（図2）。豪州企業の業績回復の行方が今後の豪州株への再評価のカギを握るポイントとなりそうです。

図1：豪州株の業績期待とバリュエーション



(出所) ブルームバーク (期間) 2015年1月1日～2017年8月31日  
(注) EPSは一株当たり利益、PERは株価収益率。  
豪州株はS&P/ASX200指数、先進国株はMSCIワールド指数。

図2：豪州の企業景況感指数と信頼感指数



(出所) ナショナル・オーストラリア銀行 (NAB)、ブルームバーク  
(期間) 2010年1月～2017年7月

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的としてレグ・メイソン・アセット・マネジメントの情報を基に、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はいくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

図3：豪州企業の純利益総額の見通し

豪企業業績は増益基調の継続が予想される。

多くの豪州企業が2017年6月期の年次決算の公表を終える中、豪州企業の2017年度の純利益の集計値が固まりつつあります。ファクトセットによるアナリスト予想の集計によれば、2017年度の豪州企業の純利益総額の推定値（実績含む予想値）は前年比+45.5%の大幅増益が見込まれています（図3）。

その後、2018年度以降も豪州企業の増益基調は継続が予想されています（2018年度予想が同+9.1%、2019年度予想が同+5.0%）。特に2018年以降は資源・非資源の両セクターが企業業績を押し上げるとみられています。

利益率の改善が今後の豪州企業の増益要因に

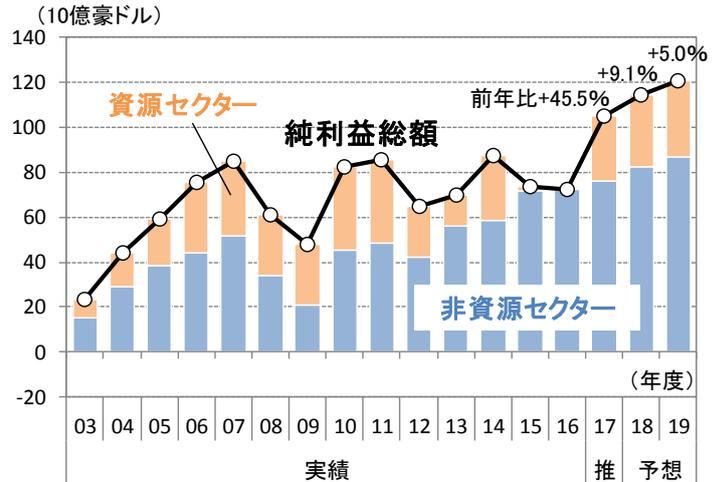
今後の豪州企業の業績拡大の原動力として、豪州企業の利益率改善と豪州の経済成長率の上昇という二つの要因を挙げることができます。

前者に関しては、豪州企業の売上高・純利益率は2016年の12.3%から2017年には13.1%へ改善し、2019年には13.5%と2007年以来の水準へ上昇すると見込まれています（図4）。足元では、豪州国内での電力価格上昇が豪州企業にとって事業コストの上昇懸念となっているものの、経営合理化の進展が豪州企業のコスト競争力を高めていると考えられます。

LNG輸出や個人消費が豪経済成長を押し上げへ

一方、豪州の2017年1-3月期の実質国内総生産（GDP）成長率は天候不順など一時的な要因により前年比+1.7%へ鈍化しました。もっとも、豪州準備銀行（RBA）が8月4日に公表した「四半期金融政策報告」によれば、豪州の実質GDP成長率は2017年10-12月期には前年比+2.0-3.0%へ回復し、2019年10-12月期には前年比+3.0-4.0%へ一段と上昇すると見込まれています（図5）。

RBAは2017年から2019年にかけての液化天然ガス（LNG）輸出拡大が実質GDP成長率を年率約0.5%押し上げると予想しているほか、個人消費の力強い伸びが景気拡大の主導役になるとの見方を示しています。



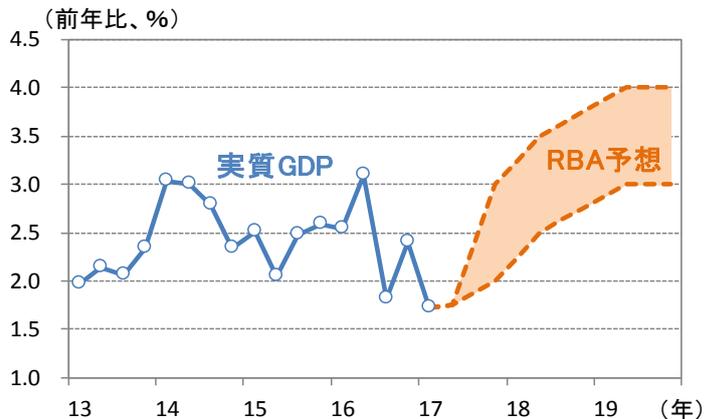
（出所）ファクトセット（注）S&P/ASX200指数採用銘柄ベース。各年度の利益総額は各年6月～翌年5月に年次決算期末を迎える企業の利益を集計。大半の豪州企業の決算期は6月期決算。予想はファクトセット集計のコンセンサス（2017年8月31日時点）。

図4：豪州企業の売上高・純利益率



（出所）ファクトセット（注）S&P/ASX200指数採用銘柄ベース。予想はファクトセット集計のコンセンサス（2017年8月31日時点）。

図5：豪州準備銀行（RBA）の豪州経済見通し



（期間）2013年1Q～2017年1Q（予想は2017年2Q～2019年4Q）  
（出所）豪州政府統計局（ABS）、豪州準備銀行（RBA）  
（注）RBA予想は「四半期金融政策報告（2017年8月）」より。

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的としてレグ・メイソン・アセット・マネジメントの情報を基に、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。